



2022 BUSINESS REPORT

大成温調株式会社

証券コード:1904

たてものを、いきものに
LIVZON

第71期 報告書

2021.04.01—2022.03.31

株主の皆さまへ

たてものを、いきものに

LIVZON

株主の皆さまには、日ごろから格別のご支援、ご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに当社第71期の業績についてご報告申し上げるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

当社は、創業以来、空気調和、給排水衛生、電気設備工事を中心に安全で快適な環境の創造に取り組み続け、昨年度、無事に創業80周年を迎えることができました。

しかしながら、新型コロナウイルス発生以前と現在を比較すると、建設投資の落ち込みは、非常に厳しい状況にあります。

こうした状況の中、当社は長期ビジョン『LIVZON DREAM 2030』の実現へ向け、より具体化した中期経営計画「LIVZON DREAM 2030 1st half!」を策定いたしました。(詳細につきましては、本報告書をご確認ください)

今後は、「LIVZON DREAM 2030 1st half!」で掲げた施策を実行することにより、経営規模の拡大を図ってまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

大成温調株式会社
代表取締役社長執行役員 水谷憲一



経営陣のご紹介

代表取締役社長執行役員 水谷 憲 一

取締役副社長執行役員 志田 憲 彦

取締役専務執行役員 玉置 雅 幸

取締役常務執行役員 今井 康 之

取締役常務執行役員 岡田 浩 二

取 締 役 野 口 光 男 ※

取 締 役 大久保 和 正 ※

取 締 役 伏見 幸 洋 ※

取 締 役 松 下 香 織 ※

※監査等委員

注) 大久保和正氏、伏見幸洋氏および松下香織氏は社外取締役であります。

スペシャル対談



山岡：2022年3月期は、売上確保に苦戦する一方で、利益面では期初計画を大きく上回る結果となりました。振り返りをお願いします。

水谷： コロナ元年と言われた2年前に比べると外部環境は若干持ち直しているのですが、まだまだ市場全体は回復の途上です。弊社においては、期初の受注残が厳しい中でのスタートだったこともあり、通期の売上げはほぼ計画線での着地となりました。また期の後半にかけては資機材の調達を中心にコストが上昇し、受注競争と相まって利益確保の面でもチャレンジングな年度となりました。調達価格交渉の前倒しや先行発注などを通じて原価低減に努めるとともに、お客様の設備全体としての機能は維持しながら、施工に関わる資機材のボリュームを効率化する「バリューエンジニアリング」の発想によって原価低減を進めたことなどが奏功し、何とか期初予想を上回る結果を残すことが出来ました。

スペシャル対談

山岡：4月に始まった23年3月期の見通しをお聞かせ下さい。

水谷： 弊社の得意分野である医療や製造工場関連の設備投資に動きが出始めています。まだ計画段階のお話が多いものの、技術的に難易度の高いクリーンルームや大型の病院施設、物流倉庫などにおける弊社の施工実績をご評価頂く中で、引き合いの機会も増えてきました。物価上昇に伴うコスト面での懸念が残るため、利益計画は慎重を期しておりますが、今後ますます付加価値の高い分野へと経営資源をシフトすべく、しっかりと種をまいていく所存です。

山岡：昨年掲げた10年間の長期ビジョンの実現に向けて、今年5月に「LIVZON DREAM 2030 1st half!」を公表し、まずは2025年を見据えた中期経営計画（中計）を推進されます。中計の対象期間を3年とする企業が多い中で、あえて5年計画とした理由を教えてください。

水谷： 弊社が属する設備投資の業界は長期に及ぶプロジェクトが多く、様々な経営課題に対して腰を据えて取り組むためには5年程度のスパンが必要だと考えました。10年ビジョンに掲げた『総合たてものサービス企業』への進化を実現する上で、まずは基礎固めとなる2025年までの前半戦の戦い方や目標を公表した次第です。少し先の未来を見据えた具体的な方向性を示すことで、変革に向けた社内の意識を高める狙いも込めています。もちろん、経営を取り巻く内外の環境は常に変動しますので、その都度、会社としての多様性と総合力を活かした柔軟な変化対応にも努め、企業価値を高めていきたいと考えています。

山岡：中期経営計画の実現に向け、アドバンテッジアドバイザーズ社（以下「AA社」）と事業提携してから1年が経ちました。この間の成果や現在の状況をお聞かせ下さい。

水谷： AA社が持つ「データ分析手法」や「論理的な構想力」などの知見を、私たちが持つ建設施工ビジネスに関わるノウハウに組み合わせることで、イノベーション（革新）の種まきが始まっています。弊社の役員がリーダーを務める複数のプロジェクトに、部署の垣根を越えて多くの中堅社員が参画する形で様々な検討が進んでいます。

先述した長期ビジョンでは「機能戦略」「地域戦略」「DX（デジタルトランスフォーメーション）戦略」の3つを中核に据えています。そのために必要なサービス機能の拡充や、強みを補完し合える有力な地域企業様との提携に向けて、我々が単独では実現できないようなスピード感で検討が重ねられています。さらにDXについては、第一段階としての「業務プロセスのデジタル化」が具体的に進み始めました。



また、基盤事業における「利益率・生産性向上プロジェクト」にもAA社との提携の成果が見え始めています。専門的な手法に基づいて過去の施工実績を紐解くことで、私たちのノウハウや技術力を活かせる採算性の高いセグメントはどこなのか、を具体的な数値で確認できるようになってきました。営業・調達・施工という弊社の事業プロセスを進めていく中で、今後は付加価値の高い分野に向けて、限りある社内の資源を集中的に投下し、収益性の大幅な改善を図っていきます。「質の重視」を経営全体の課題として再確認できたことが、AA社との協業における最初の大きな成果だと捉えています。



山岡：SDGs（持続可能な開発目標）への関心が高まる中、御社が果たす役割も大きくなることが期待されます。

水谷： 持続可能な開発に対するお客様の意識が広がる中であって、私たちが果たすことの出来る直接的な社会的役割の一つとして「建物から排出されるCO₂の削減」が挙げられます。エネルギーコスト全体の中で、空調や照明に起因する部分は約7割に及ぶと言われています。弊社が得意とする空調や照明システムの入れ替えを中心に、大幅なカーボン削減に寄与するご提案とその実現を通じて、SDGsに貢献するチャンスが生まれています。電力価格が上昇する局面においては、エネルギー効率を高める設備の導入が、お客様にとっても有効な投資となりますので、建物のリニューアル案件については今後も積極的に取り組んでいきます。

山岡：海外事業の状況を教えてください。

水谷： ハワイ市場は、米国本土からの投資を含めて回復傾向が顕著であり、コンドミニアム関連の案件を中心に好調が続いています。中国については2010年代後半に進めてきたオペレーションの現地化が奏功し、効率的に利益を生み出せる体制が整ってきました。ポスト・コロナを見据え、今後は現在の効率性を維持しながら、設備投資意欲の高いお客様に向けて、如何にしてボリュームを拡大するかが重要であると考えています。

山岡：最後に、株主の方々へのメッセージをお願いします。

水谷： LIVZON DREAM 2030に掲げた長期ビジョンを実現するためには、成長投資が重要です。今回発表した中期経営計画が対象としている10年ビジョンの前半戦では、そのための原資を着実に創出することに注力してまいります。腰を据えた経営改革を支えて下さる株主の皆さまに心から感謝申し上げるとともに、適切な還元策を通じて、そのご期待にお応えすることも大切な経営の責任と認識しております。株主・投資家の皆さまのご理解とご支援を、引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

中期経営計画 「LIVZON DREAM 2030 1st half!」

マテリアリティと目指すべき方向性

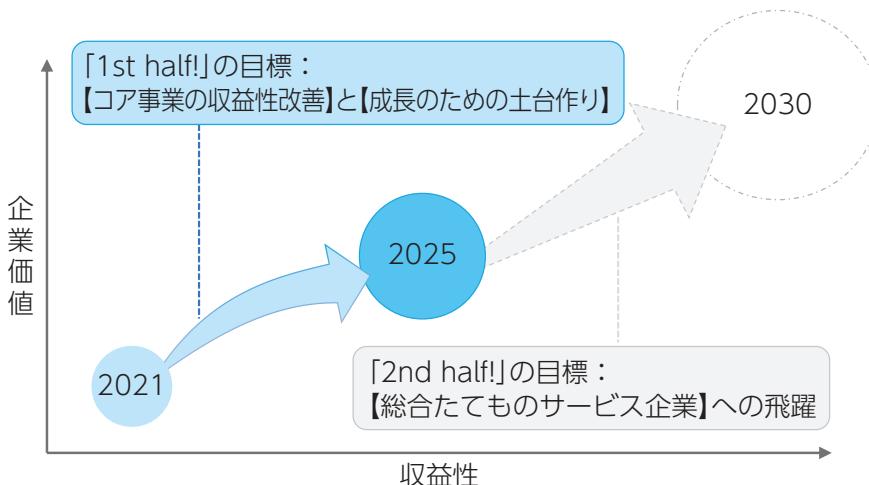
- 内外の経営環境分析より特定されたマテリアリティに対し、「多様性」と「総合力」の拡充へ向け企業体制・構造を変革します。

| | マテリアリティ | 関連するSDGs |
|-------|--|--|
| 社会 | 急激に変化し多様化する社会的ニーズに応えることのできるサービスの提供 |     |
| 環境 | 持続可能な社会実現に向けたサービスの提供 |      |
| ガバナンス | 多様性を尊重し個々の能力を最大化し、社会的責任を果たしながら企業価値を向上させる仕組みの構築 |    |

「多様性」と「総合力」

LIVZON DREAM 2030 「1st half!」の位置づけ

- 「LIVZON DREAM 2030 1st half!」の位置づけとして、2021年から2025年までを「1st half!」、2026年から2030年までを「2nd half!」として『総合たてものサービス企業』へと飛躍してまいります。
- 「1st half!」の目標として、コア事業の収益性を高めつつ、成長投資と経営基盤の整備を進めます。



LIVZON DREAM 2030 「1st half!」の基本方針

- 「1st half!」の基本方針として「①基盤事業の深耕」、「②成長への投資」、「③経営基盤の整備」を掲げ、以下を重点項目として取り組んでまいります。

①基盤事業の深耕

- 高付加価値セグメントへの資源配分
- 競争力の強化
- 生産性の向上

②成長への投資

- デジタルイゼーション・DXへの投資
- 事業ポートフォリオ拡充への投資
- 新規成長分野への投資

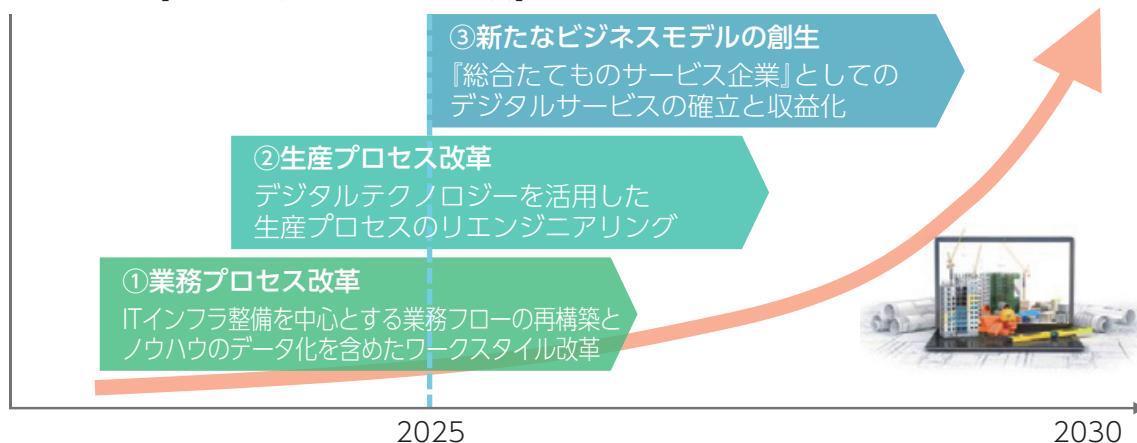
③経営基盤の整備

- 人財の確保・育成
- ガバナンスの強化
- 資本効率の向上

DXマイルストーン

- 「1st half!」では将来的なデジタルサービスの確立へ向け、業務・生産プロセス改革を着実に進めます。
- 「①業務プロセス改革」、「②生産プロセス改革」、「③新たなビジネスモデルの創生」の順で進めてまいります。

1st half! 【デジタル経営インフラの整備】



TOPICS

株式会社INDUSTRIAL-Xと資本業務提携

当社は、デジタルトランスフォーメーションを支援する株式会社INDUSTRIAL-Xと2021年10月1日付で業務委託契約を締結いたしました。DXの推進を実現するため、株式会社INDUSTRIAL-Xより、コンサルティングやプラットフォームの運営などといったDXの支援を受けております。支援内容としては以下の3点です。

- ① 業務効率化DXプロジェクト支援業務
- ② 施工DXプロジェクト支援業務
- ③ DX推進チーム立ち上げ支援に係る業務

また、2022年3月に株式会社INDUSTRIAL-Xの迅速なDX推進と、顧客ニーズに基づくサービスや機能の拡充に賛同し、株式会社INDUSTRIAL-Xに出資することになりました。これにより、グループとしての総合力を高め、更なる企業ステータスの向上を目指し、今まで以上にお客様に信頼され選ばれる「総合たてものサービス企業」として飛躍してまいります。



しながわシティスポーツクラブとパートナー契約締結

当社は、2022年2月東京都品川区をホームタウンとする総合型スポーツクラブ「しながわシティスポーツクラブ」と、パートナー契約を締結しました。「しながわシティスポーツクラブ」はフットサルチーム、バスケットボールチーム、ビーチバレーボールチームを展開する総合型スポーツクラブです。

当社は長年、スポーツを通じて品川区における地域振興に取り組んでおり、「しながわシティスポーツクラブ」の、スポーツ文化の振興を通じ、子どもたちの健全な育成、地域発展、活性化、まちづくりの強化に寄与する目的に共感し、今後はサポートを行ってまいります。



水谷大介を偲ぶ

弊社名誉顧問（元代表取締役社長）、水谷大介が去る1月15日に永眠いたしました。ここに生前に皆さまから賜りました数々のご愛顧、ご高配に心から感謝を申し上げます。水谷大介は、1967年に大成温調の取締役役に就任し、建築設備業界の発展、また会社の事業拡大のため手腕を発揮し、約50年の長きにわたり大成温調の発展に力を尽くしました。故人が残した経営基盤と価値観を受け継ぎ、挑戦を続け、更なる発展に向けて、役員・社員一同邁進していく所存であります。ここに生前の水谷大介の功績をまとめました。



略歴

1940年12月 誕生
1961年6月 大成温調工業(株)非常勤取締役
1967年11月 大成温調工業(株)取締役
1980年3月 大成温調工業(株)代表取締役社長
2010年4月 大成温調(株)代表取締役会長
2017年6月 大成温調(株)会長
2021年4月 大成温調(株)名誉顧問
2022年1月 永眠

栄誉

1998年7月 建設大臣表彰（国土建設事業功労）
2002年5月 国家表彰（黄綬褒章）



黄綬褒章祝賀会にて
(中央は扇国土交通大臣
(当時))

■ 全国規模の企業へと発展

1980年代代表取締役社長に就任後、10ヵ所程だった支店、営業所、出張所を30ヵ所に増やしたことで全国規模の企業へと発展させました。

■ 日本証券業協会に店頭登録

1991年12月に株式を社団法人日本証券業協会に店頭登録しました。
(現在は東京証券取引所のスタンダード市場に上場)

■ 当社初の海外進出を主導

1982年9月、業界に先駆け海外物件を受注。物件は、サウジアラビアにあるエクソンモービルの石油精製所。1987年には中国や香港に拠点を開設。今日に至る、アジア、太平洋地域の広域的ネットワークの基礎を築き上げました。

株主さまアンケートご協力をお願い

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。
(所要時間は5分程度です)

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です

①下記URLにアクセス ②アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示



<https://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 1904

.....以下の方法でもアンケートにアクセスできます.....



検索窓から



kabu@wjm.jp ←こちらへ空メールを送信
「件名」「本文」は無記入。アンケートのURLが直ちに自動返信されます。



スマートフォンから
カメラ機能でQRコード読み取り→
QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。



本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。 <https://www.link-cc.co.jp>

アンケートのお問い合わせ [e-株主リサーチ事務局] (2201)
MAIL: info@e-kabunushi.com

連結財務諸表 (要約)

■ 連結貸借対照表

(単位: 百万円)

| 科目 | 2021年3月31日現在 | 2022年3月31日現在 |
|--------------|--------------|--------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 27,280 | 27,663 |
| 有形固定資産 | 5,884 | 6,024 |
| 無形固定資産 | 462 | 395 |
| 投資その他の資産 | 6,360 | 6,144 |
| 資産合計 | 39,988 | 40,228 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 15,787 | 15,357 |
| 固定負債 | 218 | 174 |
| 負債合計 | 16,005 | 15,531 |
| 純資産の部 | | |
| 資本金 | 5,195 | 5,195 |
| 資本剰余金 | 5,123 | 5,132 |
| 利益剰余金 | 13,673 | 14,159 |
| 自己株式 | △256 | △634 |
| その他有価証券評価差額金 | 391 | 573 |
| 為替換算調整勘定 | △202 | 242 |
| 退職給付に係る調整累計額 | 57 | 16 |
| 新株予約権 | — | 11 |
| 純資産合計 | 23,982 | 24,696 |
| 負債純資産合計 | 39,988 | 40,228 |

■ 連結損益計算書

(単位: 百万円)

| 科目 | 2020年4月1日から 2021年3月31日まで | 2021年4月1日から 2022年3月31日まで |
|-----------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 売上高 | 48,633 | 49,153 |
| 売上原価 | 42,931 | 43,461 |
| 売上総利益 | 5,702 | 5,691 |
| 販売費及び一般管理費 | 4,399 | 4,436 |
| 営業利益 | 1,302 | 1,255 |
| 営業外収益 | 298 | 512 |
| 営業外費用 | 153 | 68 |
| 経常利益 | 1,447 | 1,700 |
| 特別利益 | 326 | 223 |
| 特別損失 | 189 | 611 |
| 税金等調整前当期純利益 | 1,584 | 1,312 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 369 | 420 |
| 法人税等調整額 | 75 | △82 |
| 当期純利益 | 1,139 | 974 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1,139 | 974 |

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

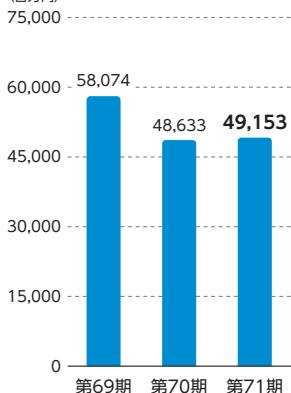
(単位: 百万円)

| 科目 | 2020年4月1日から 2021年3月31日まで | 2021年4月1日から 2022年3月31日まで |
|----------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 7,501 | △533 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,211 | 42 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △495 | △878 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | △28 | 451 |
| 現金及び現金同等物の増減額 (△は減少) | 4,765 | △917 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 8,218 | 12,983 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 12,983 | 12,066 |

記載数字は、表示単位未満の端数を切り捨てております。

○売上高

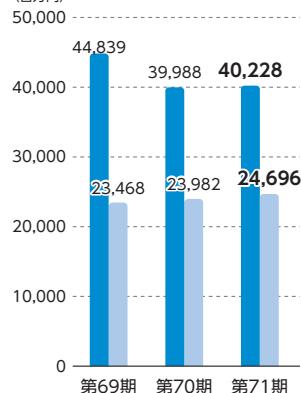
(百万円)



○総資産・純資産

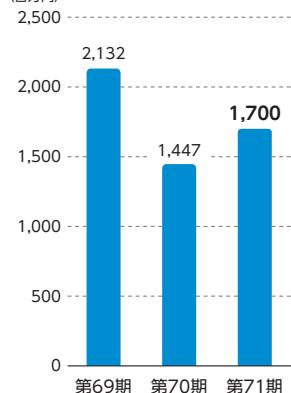
(百万円)

●総資産 ●純資産



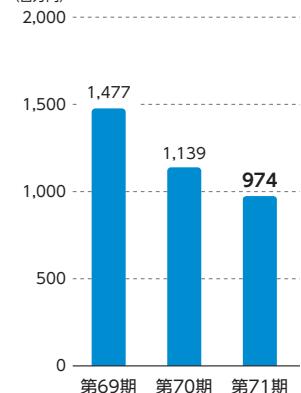
○経常利益

(百万円)



○親会社株主に帰属する当期純利益

(百万円)



当社のHPでは、詳細なIR情報を掲載しております。

<https://www.taisei-oncho.co.jp/ir/>



会社概況・株式情報

会社概況

| | |
|--------------------------|---|
| 商号 | 大成温調株式会社 |
| 本社 | 〒140-8515 東京都品川区大井一丁目49番10号 TEL.03(5742)7301(代) FAX.03(5742)4551 |
| 創業 | 1941年(昭和16年)4月3日 |
| 設立 | 1952年(昭和27年)12月22日 |
| 資本金 | 51億9,505万7,500円 |
| 従業員の状況 (2022年3月31日現在) | 590名 |
| ISO認証 | ISO9001/14001認証取得 |

ネットワーク 2022年3月31日現在

大成温調株式会社

| | |
|------------|---|
| 本社・支店 | 本社(品川区)、東北(仙台市)、関東(さいたま市)、東関東(千葉市)、横浜(横浜市)、静岡(静岡市)、名古屋(名古屋市)、大阪(大阪市)、九州(福岡市) |
| 営業所 | 青森(青森市)、盛岡(盛岡市)、秋田(秋田市)、郡山(郡山市)、茨城(つくば市)、宇都宮(宇都宮市)、群馬(太田市)、我孫子(我孫子市)、千葉県南(鴨川市)、東都(荒川区)、江東(江東区)、多摩(立川市)、厚木(伊勢原市)、山梨(中央市)、新潟(長岡市)、三島(三島市)、滋賀(大津市)、京都(京都市)、神戸(神戸市)、奈良(奈良市)、和歌山(和歌山市)、広島(広島市)、四国(高松市)、沖縄(那覇市) |
| サービスステーション | 東北(仙台市)、城南(品川区)、城北(品川区)、東都(荒川区)、城東(江東区)、城西(杉並区)、多摩(立川市)、横浜(横浜市)、厚木(伊勢原市)、千葉(千葉市)、我孫子(我孫子市)、大宮(さいたま市)、太田(太田市)、宇都宮(宇都宮市)、静岡(静岡市)、名古屋(名古屋市)、大阪(大阪市)、福岡(福岡市) |

株式の状況 2022年3月31日現在

- 発行可能株式総数 …………… 27,500,000株
- 発行済株式の総数 …………… 6,882,487株
- 株主数 …………… 9,449名
- 大株主(上位10名)

| 株主名 | 持株数 | 持株比率 |
|--|-------|-------|
| アクアウェッジ(株) | 993千株 | 15.6% |
| 大成温調取引先持株会 | 738 | 11.6 |
| 水谷日出夫 | 556 | 8.7 |
| 一般財団法人ぺんぎん奨学財団 | 296 | 4.7 |
| 河村和平 | 289 | 4.5 |
| 大成温調従業員持株会 | 263 | 4.1 |
| CACEIS BANK LUXEMBOURG BRANCH/ AIF CLIENTS' EQUITIES ASSETS | 155 | 2.4 |
| DALTON KIZUNA (MASTER) FUND LP | 133 | 2.1 |
| MSCO CUSTOMER SECURITIES | 89 | 1.4 |
| 光通信(株) | 77 | 1.2 |

- (注) 1. 上記のほか自己株式(510,308株)を保有しており、持株比率は自己株式を控除して計算しております。
2. 2021年11月22日付で、ザルトン・インベストメンツ・エルエルシーより当社株式に係る大量保有報告書(変更報告書)が関東財務局に提出されております。当該大量保有報告書(変更報告書)において、2021年11月17日現在で当社が427千株を保有している旨が記載されておりますが、当社として当事業年度末日における実質保有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。

株主メモ

| | |
|-------------|---|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月 |
| 基準日 | 毎年3月31日 |
| 定時株主総会・期末配当 | 中間配当を行う場合には9月30日 |
| 中間配当 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 |
| 株主名簿管理人 | 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 事務取扱場所 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 |
| (郵便物送付先) | 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | ☎0120-782-031 |
| (インターネット) | https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/ |
| ホームページURL | |
| 公告方法 | 電子公告の方法により、当社ウェブサイトに掲載して行きます。 ただし、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 |

※その他ご不明な点は、上記の三井住友信託銀行株式会社証券代行部にお問い合わせください。

当社および重要な関係会社（大成温調のグローバルネットワーク）

○ 大成温調機電工程（上海）有限公司



○ 大成温調株式会社

○ 温調エコシステムズ株式会社

○ ペンぎんアソシエイツ株式会社



○ ISOTEAM LTD.

※戦略的パートナー



○ ALAKA'I MECHANICAL CORPORATION



○ TOP ENGINEERING VIETNAM COMPANY LIMITED



○ SEAPRODEX REFRIGERATION
INDUSTRY CORPORATION

※戦略的パートナー

○ TAISEI ONCHO AUSTRALIA
PTY. LIMITED

○ NT AUSTRALIA
PTY. LIMITED



たてものを、いきものに

LIVZON

大成温調株式会社

本社 ● 〒140-8515 東京都品川区大井一丁目49番10号

TEL.03 (5742) 7301(代) FAX.03 (5742) 4551

